

(論文)

母親の育児感情と母性意識に与える パネルシアターの効果

松家 まきこ 藤田 佳子 守谷 賢二 松原 健司

キーワード

パネルシアター 育児感情 母性意識 育児ストレス 心理的效果

1. 問題と目的

パネルシアターが日本で誕生して42年を迎えた。古宇田亮順氏が1973年に考案したパネルシアターは、パネル布という不織布を貼った「舞台(パネル板)」の上で、Pペーパーという付着性のある不織布に描いた「絵人形」を、貼ったりはがしたり動かしたりしながら、子どもたちに語りかけ、お話や歌遊びなどを展開する技法である。手軽に作り演じられる上に、操作性や表現効果が大きいことから、子どもが日常の保育室で身近に楽しめる劇場として、保育現場で急速に広まった。例えば、松家(2008)は、1973年にパネルシアターが誕生して以降、TV放映や各地で公演・研究会が行われ、1980年には日本TV幼児番組に毎週作品が発表されるようになったことを示している。また藤田(2013)は、1984年～1986年に「幼児と音楽」(音楽之友社)に古宇田氏が毎月パネル作品を紹介、発表するようになったことを示しており、パネルシアター委員会(2011)は、1992年ごろから、保育月刊誌(「幼児と保育」「保育とカリキュラム」「保育の広場」「Piccolo」等)にパネルシアターの紹介記事や作品掲載がされ、保育・幼児教育の現場で親しみやすい教材の一つとして、保育者の間に一気に広がったことを指摘している。

作品の内容も、お話、クイズ、歌遊び等、幅広く生み出され、作品作りに必要な材料や本、カラー印刷作品も手軽に手に入るようになった。児童文化財や教材として、これだけ短期間に広まった理由は、何より、子どもが喜んで見聞きすること、つまり、絵人形の動き(視覚的魅力)と、演じ手の生の声による語りかけ(安心感・親しみやすさ・応答性)により、乳幼児でも分かりやすく、また、年齢に合わせた演じ方により、幅広い年齢の子どもが、集中して見聞きできる点であろう(松家、2013)。

このことを、考案者である古宇田は、「パネル板に絵がそのまま貼り付くことだけでもちょっとした驚きなのに、外すことも、裏返すことも、絵の上に重ねることもでき、思わぬ展開も見られ、喜び、笑い、歓声、共感が大きくなります。新しい展開を通して、一緒にうたい、考え、子どもに話す意欲、応答する力が生まれ、演者の一方通行にはならず、子どもとの一体感が高まるところに、

まつか まきこ : 淑徳大学 教育学部 兼任講師
ふじた よしこ : 淑徳大学 教育学部 准教授

もりや けんじ : 淑徳大学 教育学部 専任講師
まつばら たけし : 淑徳大学 教育学部 教授

パネルシアターの計り知れない楽しみがあります。」と記し、演者と観客との応答性と共感性による楽しさの広がり魅力を強調している(古宇田、2009)。

また、保育の中でパネルシアターを取り入れる有効性については、「パネルシアターは、子どもの興味関心、テンポに合わせて対話しながら進めることができるため、個人差の多い集団にも柔軟に対応でき、聞く、話す、共感する喜びを知るはじめての一步において有効である。」と、報告されている(松家、2010)。また、保育の中で取り入れる意義(ねらい)については、「①愛情を伝え、人への信頼感を育むため。②心をほぐし、お話の楽しさを伝えるため。③遊びや生活を豊かにするための種まき。④夢や希望を与え、感情を豊かにするため。⑤聞く楽しさを知り、言葉を豊かにしていくため。」などがあると記されている(松家、2010)。

実際、保育現場でパネルシアターを取り入れてみると、子どもたちは、演じ手の話に身を乗り出して見聞きし、声を出したり笑ったりして、演じ手と応答し、自分なりの表現を受け止めてもらう喜びを味わう。例えば、乳幼児を対象とした実践によると、「演じ手が「これはなに?」「どんな味?」と問いかけると、盛んに反応し、自分の経験したことのある味に対して、「(卵焼きは) あまいよ」「お肉の味がする」などと声を発して参加していた。言葉で十分伝えられない乳幼児も演じ手のマネをして「アムアム」と食べる仕草をしたり、「アー」と指をさして関心を示す。」と報告されている(松家2009)。

また、複数の親子と一緒にパネルシアターを見聞きする実践の中で、「共感を求めるように子どもが親の顔を見たり、親が「～ね」と、子どもに語りかけたりする。」と記され、パネルシアターを媒体に親子の対話や共感が誘発されたことが報告されている(松家、2013)。

このことから、パネルシアターの応答性と共感性は、演じ手と観客との間だけではなく、観客同士の間にも生まれ、楽しさや一体感の共有ができると考えられる。

また、近年は、子育て支援の場で上演する機会が増え、松家が親子を対象にパネルシアターを上演した際に、「うちの子がこんなに集中して見聞する姿に驚きました」「子どもが大喜びする姿に私も癒されました」と、我が子の姿を肯定的にとらえ、愛しさや成長を発見する様子や、「私自身が夢中になって楽しめました」「前回見たパネルシアターの歌を、家でも親子で一緒に歌っています」と、母親自身がパネルシアターの楽しさを味わい、親子で共に過ごす喜びや、子どもとのかかわり方を発見し、日々の育児に生かしているという報告を受けることも多くなった。

これらの経験から、筆者らは、パネルシアターが、母親が子どもを肯定的に受け止め、育児を楽しむことに役立っているのではないかと、親子でパネルシアターを見聞きする体験は、母親の育児感情や母性意識(母親としての役割意識)に、何らかの肯定的な影響を与えているのではないかと考えた。

他方、近年の社会環境の変化や少子化、地域連携の希薄化などにより、子育て中の母親の孤独化、育児ストレスによる虐待の増加などの問題から、母親への支援のあり方が喫緊の課題となっている。南・小原・武藤(2006)は、「育児感情は、「育児有能感」と、「子どもへの肯定感情」、「育児ストレス」の3因子に分析できる」とし、里帰り等において一時的に家事分担は軽減されても、育児分担は母親に偏る傾向があり、一時的な回避的サポートだけでは、(里帰り後に、かえって)育児有能感と子どもへの肯定感情において負の影響が示されることを指摘し、今後は、「養育者を軸とした、親族にとらわれず、子どもも大人もさまざまな人と関わりながら、互いが成長していけるサポートシステム」の必要性を述べている。

また、高橋(2007)は、「育児ストレスは、(中文略)子どもに対する否定的な感情の強さ(対児感情)、母性役割の積極性の低さ(母性意識)、不安の喚起しやすさ(特性不安)からある程度予

測可能であることが示された」とし、「子どもや子育てへの肯定的な捉え」と「母親としての役割意識」が、育児ストレスの軽減に大きく影響し、母親へのサポートの視点として重要であることを示している。

以上のように、これまでの研究の中で、育児ストレスの要因が様々な分野から分析され、解決方法として、家族の協力や里帰り（村中、2003；南他2006）、地域サポート（大野、2010；安藤、2008）などによる肉体的・精神的疲労の軽減、公的制度や相談事業の充実（高橋、2007；大野、2010）などが提案されてきている。しかし、それらはどれも受動的で、ストレス要因からの回避という形でのサポートに関するものが多い。

より積極的なサポート、例えば、親子がより能動的にかかわり、母親自身が、子どものかわいさや成長を発見し、楽しいと感じる体験を通して、「子どもや子育てへの肯定感」、「母親としての役割意識」を高めていくアプローチも、育児ストレスの軽減に有効なのではないかと考えられる。ただ、親子が能動的に関わることによって、育児感情や母性意識に有効性を発揮する教材やサポートに関する研究は、これまでほとんど行われていない。

様々な情報を受け、戸惑い揺れる現代の子育てにおいて、従来の家事代行や、相談事業などの、受動的回避的なサポートに加え、母親自身が学びながら、心理的負担を軽減し、「子どもや子育てへの肯定的な捉え」「母親としての役割意識や子どもへのかかわり方」など、子育てを楽しむためのスキルを向上していけるためのサポートや教材の開発こそが急務であると、著者らは考えている。

こうした背景から本研究では、パネルシアターの特性である“演者と観客との応答性と共感性”（古宇田、2009）を活かし、親子でパネルシアターを見聞きすることで、母親自身が「思わず心を開き、応答し共感し合う喜びを知ること」「子どもが夢中になって応答する姿から、成長や可愛さを発見し、子どもや育児への肯定感情を高めること」「子どもと楽しい時間を共有すること」を体験することで、育児感情を肯定的なものとし、母親として積極的に役割を取ることができるようになり、結果として育児ストレスが軽減するのではないかという仮説のもと、パネルシアターが、育児感情や母親としての役割意識に及ぼす効果を実証することを試みた。

2. 方法

2-1 調査協力者

東京都A区で開かれている「親子教室」に参加している母親21名（平均年齢34.19歳、 $SD=3.60$ ）を対象に調査を行った。親子教室に参加している21組の親子のうち1組は双子の子どもと参加しており、残りの20組は子ども1名と参加していた。また、21名の母親のうち専業主婦が19名、パートタイムで働いている母親が2名であった。

一緒に参加している22人の子どもの出生順位は、第1子が19名、第2子が3名、性別は男児が9名、女児が13名であり、平均年齢は2.05歳（ $SD=0.59$ ）であった。

2-2 調査材料

2-2-1 育児感情尺度

育児感情を測定するために、荒牧（2008）の作成した育児感情尺度を使用した。本尺度は、育児への否定的な感情と肯定的な感情を測定する尺度であり、「育児への束縛による負担感」、「子どもの態度・行為への負担感」、「育て方への不安感」、「育ちへの不安感」、「育児への肯定感」の5因子21項目から構成されている。回答は「まったくない」（1点）から「よくある」（4点）の4件法である。

2-2-2 母性意識尺度

母性意識を測定するために、大日向(1988)の作成した母性意識尺度を使用した。本尺度は母性役割の受容を積極的で肯定的な意識と消極的で否定的な意識の2側面から測定する尺度であり、「積極的・肯定的意識」と「消極的・否定的意識」の2因子12項目から構成されている。回答は「違う」(1点)から「そのとおりである」(4点)の4件法である。

2-2-3 パネルシアターの効果

パネルシアターが育児や親子関係などにどのような効果を与えるかを把握するために、「パネルシアターによってお子さんに何か変化はありましたか」(以下子どもの変化)、「パネルシアターによって親子関係に何か変化はありましたか」(以下親子関係の変化)、「パネルシアターによって親御さんの中で何か変化はありましたか」(以下保護者の変化)、「パネルシアターは育児をしている人にとってどのような効果があると思いますか」(以下育児への効果)という4つの質問について自由記述による回答を求めた。

2-3 手続き

全部で4回の親子教室を実施した。1回目の親子教室を始める前に、調査協力者に対して研究の概要の説明、自由参加であること、途中でいつでもやめることができること、論文として公表されることなどの説明を文書ならびに口頭で行った。各回の実施間隔は1回目の10日後に2回目を実施し、2回目の18日後に3回目を実施し、3回目の7日後に4回目を実施した。

「育児感情尺度」と「母性意識尺度」については、ベースラインとして1回目の親子教室が始まる前に回答を求め、2回目、3回目、4回目については各回の親子教室のあとに回答を求めた。また「パネルシアターの効果」については4回目の親子教室のあとに回答を求めた。

親子教室の概要についてであるが、1回の親子教室の時間は全部で60分で実施された。各回の親子教室は、「ふれあい遊び」(5分)→「タオル遊び」(10分)→「親子体操」(2分)→「音楽遊び」(8分)→「工作」(10分)→「パネルシアター」(25分)の順番で進行した。各回で実施した内容については「資料」に示す。

3. 結果

育児感情と母性意識については、4回の親子教室すべてに参加した母親12名(平均年齢33.83歳、 $SD = 4.55$)を分析の対象とし、パネルシアターの効果の自由記述については21名の母親の回答を分析の対象とした。

3-1 育児感情

ベースラインから4回目の育児感情の各因子得点の平均値と SD をTable 1に示す。この結果にもとづき時系列を独立変数、育児感情の各因子得点を従属変数とした一要因の分散分析を行った。その結果、育て方への不安感に有意差が見られ($F(3,33) = 3.34, p < .05$)、育ちへの不安感に有意傾向($F(3,33) = 2.48, p < .10$)が見られた。

LSDによる多重比較をおこなったところ、育て方への不安感についてはベースラインと比較して3回目と4目に有意に得点が低くなることが明らかになった(Figure 1)。また育ちへの不安感については、2回目と3回目と比較して4目に有意に得点が低くなることが明らかになった(Figure 2)。

育児への束縛による負担感、子どもの態度・行為への負担感、育児への肯定感については有意な差は見られなかった。

Table 1 各回における育児感情と母性意識の各因子得点の平均値とSD (n=12)

	ベースライン	2回目	3回目	4回目	F値
育児感情					
育児への束縛による負担感	10.71 (1.76)	10.67 (2.01)	10.08 (1.78)	10.47 (1.73)	1.82
子どもの態度・行為への負担感	12.58 (3.00)	12.25 (2.34)	12.42 (2.50)	12.42 (2.75)	0.16
育て方への不安感	11.83 (2.29)	11.14 (2.27)	10.58 (2.15)	10.83 (2.52)	3.34*
育ちへの不安感	8.75 (2.80)	9.17 (2.52)	9.25 (2.77)	8.17 (2.37)	2.48†
育児への肯定感	14.92 (1.31)	14.75 (1.66)	14.42 (1.56)	14.75 (1.48)	1.00
母性意識					
積極的・肯定的意識	17.92 (2.81)	18.08 (2.81)	18.17 (2.62)	17.83 (2.17)	0.24
消極的・否定的意識	13.17 (2.21)	12.25 (2.01)	12.92 (1.78)	13.17 (2.04)	1.32

* $p < .05$, † $p < .10$

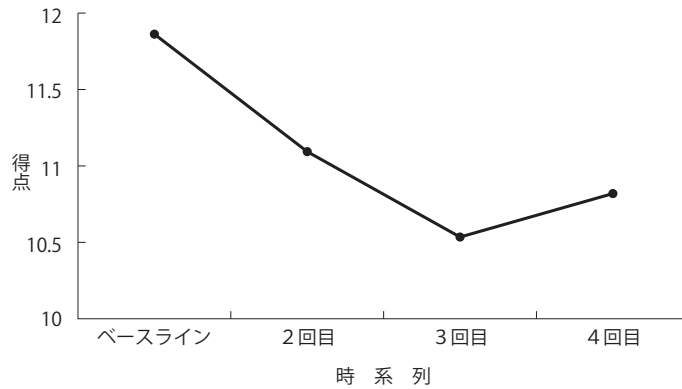


Figure 1 育て方への不安感得点の時系列変化

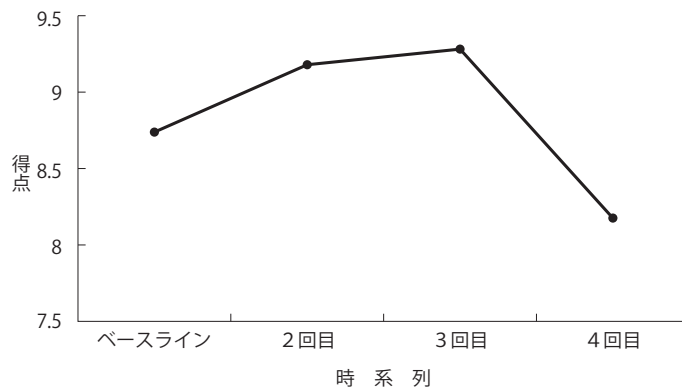


Figure 2 育ちへの不安感得点の時系列変化

3-2 母性意識

ベースラインから4回目の母性意識の各因子得点の平均値とSDをTable 1に示す。この結果にもとづいて時系列を独立変数、母性意識の各因子得点を従属変数とした一要因の分散分析を行ったところ、各因子とも有意な差は見られなかった。

3-3 パネルシアターの効果

「子どもの変化」、「親子関係の変化」、「保護者の変化」、「育児への効果」について得られた自由記述の内容を、教育系の学部で教員をしている3名によりKJ法を用いカテゴライズした。

子どもの変化については28個の回答が得られた。カテゴライズを行った結果、「興味・関心の増加」、「集中力の増加」の2個のカテゴリーに整理された。

親子関係の変化については、17個の回答が得られた。カテゴライズを行った結果、「一緒に過ごす時間の増加」という1個のカテゴリーに整理された。

保護者の変化については、18個の回答が得られた。カテゴライズを行った結果、「安心感の増加」、「好奇心・楽しみの増加」、「積極性の増加」、「効力感の増加」の4個のカテゴリーに整理された。

育児への効果については、18個の回答が得られた。カテゴライズを行った結果、「ゆとりの増加」、「楽しむ時間の増加」、「気分転換」の3個のカテゴリーに整理された。

以上の結果と各カテゴリーの回答の一部をTable 2に示す。

Table 2 パネルシアターの効果の結果 (KJ法による結果)

	カテゴリー	回答例
子どもの変化	興味・関心の増加	<ul style="list-style-type: none"> ・歌が好きになった。 ・自分もパネルシアターをやりたいとってきかなかった。
	集中力の増加	<ul style="list-style-type: none"> ・集中して見られるようになった。 ・本なども集中して見ることができるようになった。
親子関係の変化	一緒に過ごす時間の増加	<ul style="list-style-type: none"> ・ひざの上で楽しむ時間が増えた。 ・一緒に楽しむ遊びが増えた。 ・日常の中で一緒に歌う機会が多いと思います。 ・一緒に何かを共有することができる。
保護者の変化	安心感の増加	<ul style="list-style-type: none"> ・来る場所があることはありがたいです。 ・子どもとゆったりした気持ちでいられて、リラックスした気持ちや気分転換になります。
	好奇心・楽しみの増加	<ul style="list-style-type: none"> ・童心に戻って、子どもと同じように楽しんでいます。 ・どこかでやっているのと見に行こう！と思うようになった。
	積極性の増加	<ul style="list-style-type: none"> ・遊びに連れ出すことに積極的になった。 ・外出できるようになった。
	効力感の増加	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもが歌っている姿を見て成長を感じることができるようになった。 ・子どもとのかかわりが、歌を歌うことが多くなることで、やさしくなれた気がします。
育児への効果	ゆとりの増加	<ul style="list-style-type: none"> ・人にかかわることによって、追い詰められることが少なくなると思います。 ・子どもとのふれあいの時間を作る場になり、母親にとっても息抜きになっています。
	楽しむ時間の増加	<ul style="list-style-type: none"> ・変化と動きがあるので親子で楽しめます。 ・楽しく過ごせる時間。
	気分転換	<ul style="list-style-type: none"> ・親子だけの遊びの限界を超えられ、おしゃべりできて気分転換になっている。 ・子どもと楽しめるので、親子ともにリフレッシュできると思う。

4. 考察

本研究では、パネルシアターが育児感情や母性意識に与える影響と、パネルシアターが子どもや親子関係、ならびに保護者や育児に対してどのような効果を与えるかについて検討を行った。

まず、育児感情と母性意識については、「育て方への不安感」がベースラインよりも3回目と4回目に有意に低減することが明らかになった。また「育ちへの不安感」も2回目と3回目よりも4回目に低減することが示唆された。一方、育児感情における「育児への束縛による負担感」、「子どもの態度・行為への負担感」、「育児への肯定感」については変化が見られず、母性意識についても変化は見られなかった。

このことから、パネルシアターは育児感情の中でも特に「不安感」の低減に有効であることが示唆された。高橋(2007)は、育児ストレスに不安喚起のしやすさ(特性不安)が大きな影響を与えることを指摘しているが、特性不安の高い人は、育児をしていく中で自分の育て方や子どもの育ちに対する状態不安も高くなることが予想される。こうした中でパネルシアターが「育て方への不安感」と「育ちへの不安感」を低減させるという結果は非常に意義のあるものである。

では、何故パネルシアターが「育て方への不安感」と「育ちへの不安感」の低減に影響を与えたのか。この点については、子どもや親子関係、ならびに保護者や育児に対してパネルシアターが与える効果から考察を行う。

パネルシアターの効果について検討を行った結果、子どもに対しては「興味・関心の増加」、「集中力の増加」、親子関係に対しては「一緒に過ごす時間の増加」という結果が得られた。また、保護者に対しては「安心感の増加」、「好奇心・楽しみの増加」、「積極性の増加」、「効力感の増加」、育児に対しては「ゆとりの増加」、「楽しむ時間の増加」、「気分転換」という結果が得られた。

このことから、パネルシアターの親子教室に参加した親子は、教室に参加した以外の時間でも、ともに過ごすことが増え、その増えた時間を安心して、楽しみながら、ゆとりをもって過ごすことができるようになったと思われる。また、親子関係の「一緒に過ごす時間の増加」の回答内容をみると、「一緒に楽しむ遊びが増えた」「一緒に何かを共有することができる」とあり、パネルシアターで楽しんだ歌や遊びが親子の共通体験となり、日常の子育てにも取り入れて楽しんでいることがうかがえる。こうした心境の変化や親子のかかわり方の変化は、母親の子どもを見る目に好ましい影響を与えるとともに、パネルシアターによって子どもの興味・関心の増加や集中力の増加といった成長を実際に体験し、結果として「育て方への不安感」や「育ちへの不安感」が低減したのではないかと考えられる。

以上のことから、本研究では、筆者らが期待している“母親自身が学びながら、心理的負担を軽減し、「子どもや子育てへの肯定的な捉え」「母親としての役割意識や子どもへのかかわり方」など、子育てを楽しむためのスキルを向上していけるためのサポートや教材として”、パネルシアターの可能性をささやかながら実証したといえよう。

また、パネルシアターは子どもや親子関係、ならびに母親の心理にポジティブな影響を与え、これによって育児感情における不安感が低減し、結果として育児ストレスを低減させるというモデルが成立する可能性があることも示唆しており、今後はこの点について実証的な研究を行う必要があるだろう。

本研究では、パネルシアターの心理的効果について育児感情と母性意識の観点から実証的に検討を行った。パネルシアターの心理的効果についての実証的研究が少ない中で、本研究は非常に意義のあるものであるが、本研究で対象とした親子教室は、パネルシアターだけではなく、他の活動も含めたプログラムになっている。そのため、厳密にはパネルシアターだけの効果とは言い難い面も

残されている。今後は、さまざまな条件統制を行いながら、パネルシアターの心理的効果を検討していく必要がある。他方、今回変化の見られなかった、育児感情における「育児への束縛による負担感」、「子どもの態度・行為への負担感」、「育児への肯定感」、母性意識などについても、さらに個々人のライフヒストリーとの関連なども視野に入れた検証を、引き続き行っていきたい。

※心理学研究に準じて表記する

〈引用文献〉

- 安藤智子・荒巻美佐子・岩藤裕美・丹波さかの・砂上史子・堀越紀香（2008）。幼稚園児の母親の育児感情と抑うつ 保育学研究、46、99-108。
- 荒巻美佐子（2008）。幼稚園への入園前後における母親の育児感情の変化 家庭教育研究所紀要、30、139-149。
- 荒巻美佐子（2008）。育児への負担感・不安感・肯定感とその関連要因の違い—未就学児を持つ母親を対象に— 発達心理学研究、19、87-97。
- 藤田佳子（2013）パネルシアターの歴史（1）：創始者古宇田亮順とパネルシアター 淑徳短期大学研究紀要 52、181-196。
- 古宇田亮順・松家まきこ・藤田佳子（2009）。実習に役立つパネルシアターハンドブック 萌文書林
- パネルシアター委員会（2011）。夢と笑顔をはこぶパネルシアター誕生40周年記念誌 浄土宗。
- 松家まきこ（2008）。保育いきいきパネルシアター 大東出版社。
- 松家まきこ（2010）。児童文化を通して育つ『信頼感』と『コミュニケーション力』 日本保育学会第63回大会発表要旨集、549。
- 松家まきこ（2011）。食育についての家庭における意識調査と有効な教材のあり方の研究 日本保育学会第64回大会発表要旨集、468。
- 松家まきこ（2013）。親子のコミュニケーションを引き出すパネルシアターの活用法について 日本保育学会第66回大会発表要旨集、691。
- 南貴子・小原敏郎・武藤安子（2006）。育児初期の母親の育児支援のあり方に関する検討—『産後の里帰り』経験に焦点をあてて— 日本家政学会誌、57、807-817。
- 村中由紀子（2003）。母親の育児感情と行動に関わる諸要因 加真脇学園短期大学紀要、34、77-87。
- 大日向雅美（1988）。母性の研究 川島書店。
- 大野美賀子・西島真理子・矢野知恵・藤田みどり・井出彩子（2010）。1歳6か月児を持つ母親への支援に向けた社会的健康度尺度の開発 日本地域看護学会誌、13、44-51。
- 8 高橋有里（2007）。乳児の母親の育児ストレス状況とその関連要因 岩手県立大学看護学部紀要、9、31-41。

資料1

<p>親子教室の流れ</p>	
<p>①【ふれあい遊び】 「おふねをこいでゆらゆら」作詞・作曲：松家まきこ 「らららぞうきん」作者不詳</p>	<p>④【音楽遊び】 「まねっこしよう」作詞作曲：松家まきこ 「おおきなたいこ」作詞：小林純一 作曲：中田喜直 「おへんじはーい」作詞作曲：藤石芽里 「ゴリラのおんがくかい」作詞：阿部直美 作曲：淡海悟郎 「ガボット」作曲：ゴセック</p>
<p>②【タオル遊び】※全て松家2014CD教材(備)メイトに収録 「ふんわりタオル」作詞作曲：松家まきこ 「うんとこしょどっこいしょ」作詞作曲：松家まきこ 「ゴーゴシ」作詞作曲：松家まきこ 「ぼくは汽車」作詞作曲：松家まきこ 「おいけにびよん」作詞作曲：松家まきこ 「ちよろちよろおがわ」作詞：松家まきこ・作曲：藤石芽里 「ころころりん」作詞作曲：松家まきこ 「ポップコーン」作詞作曲：松家まきこ</p>	<p>⑤【工作】 1回目：歯ブラシ 2回目：アジサイとカタツムリ 3回目：ひらひらリボン アイスクリーム</p>
<p>③【親子体操】松家2014CD教材(備)メイトに収録 「びよんびよん体操」作詞：松家まきこ・作曲：藤石芽里</p>	<p>⑥【パネルシアター】 内容は次のページを参照</p>

資料2

<p>【パネルシアター】</p> <p>◆1回目 「歯ブラシ3兄弟」(お話・手遊び) 脚本/構成：松家まきこ、絵：喜屋武絵 (保育月刊誌2013. 5月号チャイルド本社) 「いれて」(お話・クイズ・歌) 脚本/構成：松家まきこ、絵：毛利洋子 (保育月刊誌2013. 5月号(備)メイト) ・かえるのうた (作詞：岡本敏明、作曲：ドイツ民謡) ・かたつむり (作詞/作曲：文部省唱歌) ・ことりのうた (作詞：与田準一、作曲：芥川也寸志) 「アイアイ」(歌) 脚本/構成/絵：松家まきこ、作詞：相田裕美、作曲：宇野誠一郎 (松家まきこ著2011「保育いきいき！季節の歌のパネルシアター」大東出版社)</p> <p>◆2回目 「アイアイ」(歌) 脚本/構成/絵：松家まきこ、作詞：相田裕美、作曲：宇野誠一郎 (松家まきこ著2011「保育いきいき！季節の歌のパネルシアター」大東出版社) 「変身マントマン！」(お話・表現遊び) 脚本/構成/作詞/作曲：松家まきこ、絵：大野太郎 (2014大東出版社) 「ぐんぐん大きくなった！」(手遊び・ふれあい遊び) 脚本/構成/絵/作詞/作曲：松家まきこ (古宇田、松家、藤田2009「実習に役立つパネルシアターハンドブック」萌文書林) 「おたんじょうび汽車」(お話・歌) 脚本/構成/絵/作詞/作曲：松家まきこ (松家まきこ著2008「保育いきいきパネルシアター」大東出版社)</p> <p>◆3回目 「まんまるさん」(クイズ) 脚本/構成/作詞/作曲：古宇田亮順、絵：松田治仁 (古宇田亮順著「パネルシアターを作る②」東洋文化出版) 「七夕のお話」(お話・うた) 脚本/構成/絵：松家まきこ 原作：説話 「くいしんぼおばけ」(クイズ・歌) 脚本/構成：松家まきこ、絵：岡本ゆかり、作詞：村田さちこ、作曲：福田和禾子 (松家まきこ著2011「保育いきいき！季節の歌のパネルシアター」大東出版社) 「おもちゃのチャチャチャ」(歌) 脚本/構成：古宇田亮順、絵：松田治仁、作詞：野坂昭如、作曲：越部信義 (古宇田亮順著「パネルシアターを作る②」東洋文化出版)</p> <p>◆4回目 「アイスクリームの歌」(歌) 脚本/構成/絵：松家まきこ、作詞：さとうよしみ、作曲：服部公 (松家まきこ著2011「保育いきいき！季節の歌のパネルシアター」大東出版社) 「そっくりさん」(クイズ) 脚本/構成/絵/作詞/作曲：松家まきこ (松家まきこ著2008「保育いきいきパネルシアター」大東出版社) 「せんたく変身しゃわららん」(お話) 脚本/構成/絵：松家まきこ (アイ企画) 「おたんじょうび汽車」(お話・歌) 脚本/構成/絵/作詞/作曲：松家まきこ (松家まきこ著2008「保育いきいきパネルシアター」大東出版社)</p>	<p>9</p>
--	----------

(受理 平成27年9月4日)